

環境社会心理学

—市民参加による持続可能な社会づくりにおける人々の行動理解・行動変容を目指して—

担当者氏名：前田 洋枝

(研究室番号：Q6006)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

持続可能な社会の実現には、ハード面の整備、ソフト面での仕組みづくり、一人ひとりの環境に配慮した行動の実行がともに必要です。例えば、不用になった衣類のリユースは、不用とされた衣類を回収し、販売などを行なうノウハウを持つNPO・企業などの「資源」、回収場所を提供(ボックス設置など)できる公共施設や大学、商業施設などを結びつける「仕組み」、そして、「リユース用に回収に出す」に「行動変容」した人々によって実現します。

人の態度や行動の規定因の理解と変容を促すさまざまなアプローチは、社会心理学の重要なテーマです。本プロジェクト研究は、環境社会心理学の知見と方法を元に取り組みます。

行動は、個人で可能な環境配慮行動からボランティア活動や市民参加まで含みます。態度・行動の対象となるトピックは環境問題・環境政策の他、感染症予防など健康の保持・増進や安心安全(防災・防犯)に関する態度・行動に関心のある学生さんも歓迎します。

行動の規定因を明らかにする調査や実験、行動を促す政策や各種団体の活動あるいは環境教育プログラム等の効果を測定し、改善案を提案する、情報提供の内容やゲーミングを含めたプログラム作りとその実践の成果・・・いずれも卒業論文にすることができます。

市民参加では、英国・フランスで始まった「気候市民会議」が世界・日本で実施例が増えています。人々の会議に対する評価や提言の受容・実現に向けた行動に影響する要因などシナリオ実験や調査などで明らかにすることも考えられます。

以上のような内容について、「環境社会学」「地域環境論」「政策と市民参加」でお話ししていることをベースに、実際に調査や実験などを実施します。

2. プロジェクト研究の進め方

3年次第1Q：

環境社会心理学の基本的な研究方法の理解のため、それぞれの方法で研究を行なった論文を分担してレジュメを作成して発表してもらいます。3年生の間に行う調査等の実習テーマもゼミメンバーで相談して決定します。

3年次第2Q(総合演習B)～第4Q：

第1Qで決めたテーマで調査や実験を実際に実施し、結果を分析します。例年、夏休みも3回程度サブゼミをして調査や実験の準備をします。第3・4Qでは各自の卒論テーマに関連する論文の内容をレジュメにまとめて発表し、メンバーでディスカッションします。春休みもサブゼミを実施し、3年生の終わりには卒論の序論を書き始めます。

4 年生：

序論を仕上げ、質問紙等を準備し、調査等を行ないます。第 2Q の終わり頃～9 月には実際に調査等を実施し、第 3・4Q では、結果を分析して卒論を仕上げていきます。質問紙案や分析結果は定期的にゼミで発表し、メンバーでディスカッションしながら進めます。

なお、ゼミメンバーの希望や関心に応じて、そのテーマの政策に関わる行政の担当者や NPO の方などと意見交換をする機会や施設などの見学も設定することがあります。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

「環境社会学」を 2 年次に単位修得済みであることが望ましい（未修の場合は 3 年次に必ず履修すること）。

そして、3 年次第 1Q では「環境調査法」を履修することを強く勧めます。

「環境政策論」、「地域環境論」、「政策と市民参加」は、2 年次までに履修済みか、3 年次に履修することが望ましいです。

行政や NPO による環境政策・公共政策の課題解決の取組に興味があれば、前田担当の「政策の現場から C」も履修すると良いでしょう。

総合演習は、3 年生の第 2Q に開講される総合演習 B（担当：前田）を履修すること（やむを得ない理由で履修が難しい場合は、プロジェクト研究選考の面接で相談すること）。

コース選択は、環境政策コースの履修が望ましい（公共政策コース、国際政策コースも可）。

4. プロジェクト研究開始までの準備

3 年次開始までに読んでおくことが望ましい文献を指示することがあります。

日頃から環境配慮行動を促す活動や、環境政策や市民参加に関するニュースに気をつけておくことを勧めます。ゼミ内容に関連する活動(参加は任意)を案内することがあります。

5. その他

テーマを自主的に見つける意欲があり、困ったことなどあれば、遠慮なく報告・相談するなど責任ある行動をする人、主体的にゼミでの学びに参加する人を求めます。

「実際にデータを取り、その分析をすること」を重視しています。統計学の履修が望ましいですが、未履修の学生さんにも分かりやすく統計ソフトの使い方や分析結果の見方などを説明します。アンケートの作り方・結果の見方、人々の意思決定の仕組みや行動を促すアプローチの理解や実践経験は、民間企業・公務員のいずれでも就職後に役立ちます。

6. 選考方法

志望理由書と面接(対面または Zoom)により、決定します。

プロジェクト・アワーに出席していることが望ましいです（選考では、プロジェクト・アワーに出席している学生さんを優先することがあります）。